

2017年世界ベテラン選手権大会 審判報告書

FJE 審判委員会委員 森田篤哉

表題の件について下記の通りご報告させていただきます。

2017年10月15日から21日までスロベニア国マリボー市で世界ベテラン選手権大会が開催されました。日本からは甲斐正彦氏、森田篤哉の2名が帯同審判員として参加いたしました。

1、大会日程

10月15日(日)	審判会議
10月16日(月)	男子フルーレ個人 カテゴリー(B・C) 女子エペ個人 カテゴリー(A・B・C)
10月17日(火)	男子フルーレ個人 カテゴリー(A) 男子サーブル個人 カテゴリー(B、C) 女子エペ団体
10月18日(水)	男子サーブル個人 カテゴリー(A) 男子フルーレ団体 女子フルーレ個人 カテゴリー(A・B・C)
10月19日(木)	男子エペ個人 カテゴリー(B、C) 男子フルーレ団体 女子フルーレ団体
10月20日(金)	男子エペ個人 カテゴリー(A) 女子サーブル個人 カテゴリー(A・B・C)
10月21日(土)	男子エペ団体 女子サーブル団体

※ カテゴリーAは50-59才、Bは60-69才、Cは70才～
団体戦は各カテゴリー1名の代表がリレー方式で2回
合計6ラウンド30本(交代は試合を通して1回のみ)

2、 審判活動内容

私は主にサーブルの審判員として参加しました。会場は3会場でピストの総数は24ピスト、参加者の合計が600名で審判員の総数が46名と、今まで見たことのない規模の大きな大会でした。

大会日程にもあるとおり、多い日で1日に3カテゴリーのプール戦、そしてエリミナシオンディレクトがある日もあり、常に審判員控え室に掲示される自分の名前を確認して行動する必要がありました。

私はサーブルを主に審判をしましたが、経験値の多い審判員とプール戦や団体戦を組ませていただき、試合のコントロールや選手やコーチ、監督とのコミュニケーションの取り方など、勉強になる点が数多くありました。

今大会で一番印象に残った事は、プール戦の試合後のスコアシートサインを拒否する選手がいたことです。サインをしなかった理由としては、4-4からの1本勝負に本人は勝ったと思い込んでいたため、負けのスコアに納得がいけないというのが本人の言い分でした。主審2名、対戦相手選手、試合を見ていた同じプールの選手にDTとともに聞き取りを行い、結果は変わらない旨を本人に伝えましたが、最終的にサインをもらえないまま、エリミナシオンディレクトに進む事になりました。本来主審がピストで事態を収束しなければならない所で、DTに介入してもらった事になり苦い経験となりました。

3、 まとめ

今大会を終えて、いつも先輩審判員の方に教えて頂いている事ですが、審判員は常に“ストロング”でなければならないということを実感しました。勝利への執念に年齢は関係ありませんでした。審判員として試合を公平にジャッジする事は当然の事、試合のコントロールや、コーチや監督とのコミュニケーション力がとても重要であると改めて実感することができました。

また、審判員控え室では連日のように携帯やPCの試合映像を観て

どちらが勝ちかとディスカッションが行われていたり、ファイナルに私を入れて欲しいとレフリー・デレゲイトにアピールする審判員がいたり、来ている審判員の意識の高さと自己アピールの必要性を感じることができました。

今回、主審をした試合はエリミナションディレクト T16 まででしたが、ファイナルの審判に指名が入る甲斐正彦氏のような諸先輩のレベルに到達できるよう、経験を積んでいきたいと思っています。

以上